

全国首長九条の会ニュース

2023年12月28日 第54号

ホームページ：<https://kubicho9jo.com/>

●連絡先：〒101-0065 東京都千代田区西神田2-5-7 神田中央ビル 303 九条の会気付 ☎03-3221-5075
fax03-3221-5076 メール：sppn3av9@hyper.ocn.ne.jp 郵便振替口座 00190-4-635731 (全国首長九条の会)

全国首長九条の会 「第4回総会と市民のつどい」

“戦争の準備をするのではなく、平和の準備を”とアピール採択

11月19日、全国首長九条の会は、明治大学で「第4回総会と市民のつどい」を開き、ZOOMも含めて会員22人、市民40人が参加し、活発な討論を行いました。そして、違憲の敵基地攻撃能力保有を容認する安保3文書の危険性に警鐘を鳴らし、国会の憲法審査会での改憲案づくりをやめさせるなどの活動方針とアピールを採択し、役員を選出しました。総会には、玉城デニー沖縄県知事、達増拓也岩手県知事などからメッセージがありました。

総会の前日11月18日に元秋田県皆瀬村長の小南三郎さんが亡くなり、総会後、元青森県大畠町長の木下千代治さんが10月に亡くなられたと連絡があり、会員は現在121人となりました。



共同代表で元宮城県白石市長の川井貞一さんが「市民との連携を緊密にし、平和を守り抜いていきたいと思います」と開会のあいさつを行いました。

「九条の会」を代表し小森陽一事務局長からビデオメッセージがあり、小森氏は、「莫大な軍事予算が5カ年計画で組まれ、実際に購入される限りわけ長距離ミサイルが危険な役割を担っている」と岸田政権が進める大軍拡と「敵基地攻撃能力」を批判。そして「いったん戦火が開かれたら、どういう人が犠牲になるか。日々、報道されているガザ地区、ウクライナへのロシア侵略の実態をつぶさに私たちは見ている。これを絶対にアジアの地域で起こしてはならない。日本が現在に至るまで軍備を使っていないことこそが9条の力なのだということ

を多くの方々に知らせていただきたい」と話し、首長九条の会への期待を述べられました。

安保3文書でディスカッション

第一部では、「9条を空文化する安保3文書一戦争の危機は沖縄、そして全国に」をテーマに討論を行いました。伊波洋一参院議員・元沖縄県宜野湾市長と瑞慶覧(ずけらん)長敏・前沖縄県南城市長、井原勝介・元山口県岩国市長が報告を行いました。

伊波氏は、沖縄本島での弾薬庫、与那国島でのミサイル基地の建設について話し、「安保3文書による新たな基地づくりがスタートしている」と指摘。「沖縄だけではなく、全国の300の自衛隊駐屯地で報復攻撃に備える準備ができている」と語りました。瑞慶覧氏は、若者の意見を積極的に反

映した「沖縄を再び戦場にさせない県民の会」の取り組みを報告しました。井原氏は、「強襲揚陸艦などの米海軍の大型艦船が繰り返し岩国の基地に寄港するようになった」「日米軍事一体化は確実に進んでいる」と強調しました。

討論では、首長と市民が発言。共同代表の松下玲子・東京都武蔵野市長は「今日、お話を聞いていて、『標的』がキーワード。標的を新たに作っちゃいけない。憲法の理念をしっかりと守って平和な日本でいなければならない」と語りました。

9条の会・医療者の会呼びかけ人（全国保険医団体連合会会長）住江憲勇さんは、保険証の廃止の狙いは、「安上がり医療、標準医療化、そして社会保障給付抑制と軍事費作り」だと批判。「練馬から戦争に協力しない！させない！練馬アクション」の池田五律さんは、朝霞駐屯地と練馬駐屯地と2つの自衛隊の駐屯地がある練馬区で行われた国民保護訓練の問題点や重要土地等調査規制法の区域指定の問題点を指摘しました。



総会の討論では6人が発言

第2部は第4回総会でした。元山梨県笛吹市長の倉嶋清次さんを議長に選出し、議案の提案を矢野裕事務局次長が行い、監査報告を吉田万三監事が行った後、討論・交流が行われました。

元千葉県長生村長の石井俊雄さんは、長生村議会でのハラスマント防止に向けた条例案に憲法に貫かれている平等、対等に基づいて職員と議員は対等であるという文言を取り入れさせたことを報告しました。

総会直前に北海道から2人目の会員となつた前北海道訓子府町長の菊池一春さんは、今年は長沼判決から50年が経ちましたが、今は、それどころではないような状況が起きているっていうことを認識されられたと話されました。

共同代表で元高知県四万十市長の田中全さんは、10月22日の参議院補欠選挙で無

所属の広田さんがダブルスコアで圧勝したのは、軍拡・増税や物価高に対する怒りが爆発した結果で、自民党支持者の3割が広田さんに入れたことが大きな特徴だったと分析。「今後、保守の方を含めて政策を作り上げていくという、柔軟な、輪を広げるということが必要だ」とのべました。

元大阪府東大阪市長の長尾淳三さんは、政治を変えてほしいという人たちの願いを自分の陣営に引きつけることで勝利をしてきた首長としての経験と有権者との繋がりについて、京都の市長選挙で、3度立候補された井上吉郎さんが言語障害、車いす生活という中でも駅前で「無言宣伝」を行った例をもとに、いくら正しいこと言っても、つながりがなかったならば伝えられないと繋がりの重要性を話されました。

前滋賀県日野町長の藤澤直広さんは、「九条を守り、平和を大事にする」この1点で団結する取り組みをやろうと「滋賀首長九条の会」を結成したと述べ、12月9日に行う「憲法改悪反対、大軍拡反対の憲法集会」には、滋賀の9条の会、民主団体、労働組合、滋賀県生協連合会が全面的に実行委員会に入り、「戦争するなんて俺聞いてないぞ」というような見出しにして、大学生にも参加を呼びかけている経験を語りました。

元埼玉県越生町長の田島公子さんは、埼玉県議会で突然提案された、「子ども虐待禁止条例案」に反対したお母さん方の運動を紹介しながら、私たちの運動も、もっと柔らかく、誰でも参加できるような、普通の市民の感覚がわかる、そういうような会になつたらと思うと発言されました。

拍手で活動方針案、決算と監査報告、役員案の採決を行い、新役員の紹介、アピールの提案と採択が行われました。アピールは、ウクライナ戦争とイスラエル、ハマスの紛争の即時停戦を要求。岸田政権による大軍拡と憲法9条改憲について「政府としてなすべきことは、海外で戦争ができる国づくりでは断じてない」と批判し、いま求められるのは、「戦争の準備ではなく、平和の準備を”であると表明しています。

最後に、新しく事務局次長に選ばれた、前滋賀県日野町長の藤澤さんが閉会あいさつを行いました。